

大分市立松岡小学校 学力向上プラン（8月～）

学力・学習状況について				
児童生徒の実態	<p>1 各種学力調査の分析結果から明らかになった成果 5年【大分県学力定着状況調査】では、国語の「漢字を書く」「説明文の内容を読み取る」や算数の「角の大きさ」「折れ線グラフと表」の問題で目標値と県平均を上回っていた。理科でも「天気のようにすと気温」「電気のはたらき」「月と星」「物の体積と温度」の4つの問題で目標値と県平均を上回っていた。</p> <p>2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況 国語・理科では知識、活用とも県平均値を上回っている。意欲・関心・態度はとても高いことが分かる。しかし算数では数学的な考え方に課題があり、問題の整理の仕方の理解を深めるような指導を重ねていく。</p>			
今後の取り組み	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字辞典の使い方に慣れ、語彙を増やすために、授業で辞書を活用していく。 ・「漢字の読み」に習熟するために、毎日の音読練習を今後も継続していく。 ・書くことに慣れ親しみ、正しい言葉の使い方を身につけるために、天声人語ノートへの複写を朝学習で継続していく。 </td> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形に関する作図の技能の向上と図形の特徴に関する知識の定着のために、授業で図形や数値線、面積図、表、グラフ等を書く時間を十分に確保していく。 ・四則計算の習熟のために、計算ドリル（アイテム）への取り組みを朝活動や授業時間内での振り返り、家庭学習等で今後も継続していく。 ・学期末には複数教員により習熟度別授業を行い、特に下位の児童へ学習内容の定着をはかる。上位の児童には、活用問題に取り組む時間を十分に確保し、応用力を高める。 </td> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察等の活動を積極的に取り入れていき、知識・技能を体験的に身につけられるようにする。 ・課題、まとめ、振り返り、をはつきりと明示した問題解決型の授業を今後も継続していくことで、さらなる思考力の高まりを目指す。 </td> </tr> </table>	<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字辞典の使い方に慣れ、語彙を増やすために、授業で辞書を活用していく。 ・「漢字の読み」に習熟するために、毎日の音読練習を今後も継続していく。 ・書くことに慣れ親しみ、正しい言葉の使い方を身につけるために、天声人語ノートへの複写を朝学習で継続していく。 	<p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形に関する作図の技能の向上と図形の特徴に関する知識の定着のために、授業で図形や数値線、面積図、表、グラフ等を書く時間を十分に確保していく。 ・四則計算の習熟のために、計算ドリル（アイテム）への取り組みを朝活動や授業時間内での振り返り、家庭学習等で今後も継続していく。 ・学期末には複数教員により習熟度別授業を行い、特に下位の児童へ学習内容の定着をはかる。上位の児童には、活用問題に取り組む時間を十分に確保し、応用力を高める。 	<p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察等の活動を積極的に取り入れていき、知識・技能を体験的に身につけられるようにする。 ・課題、まとめ、振り返り、をはつきりと明示した問題解決型の授業を今後も継続していくことで、さらなる思考力の高まりを目指す。
<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字辞典の使い方に慣れ、語彙を増やすために、授業で辞書を活用していく。 ・「漢字の読み」に習熟するために、毎日の音読練習を今後も継続していく。 ・書くことに慣れ親しみ、正しい言葉の使い方を身につけるために、天声人語ノートへの複写を朝学習で継続していく。 	<p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形に関する作図の技能の向上と図形の特徴に関する知識の定着のために、授業で図形や数値線、面積図、表、グラフ等を書く時間を十分に確保していく。 ・四則計算の習熟のために、計算ドリル（アイテム）への取り組みを朝活動や授業時間内での振り返り、家庭学習等で今後も継続していく。 ・学期末には複数教員により習熟度別授業を行い、特に下位の児童へ学習内容の定着をはかる。上位の児童には、活用問題に取り組む時間を十分に確保し、応用力を高める。 	<p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察等の活動を積極的に取り入れていき、知識・技能を体験的に身につけられるようにする。 ・課題、まとめ、振り返り、をはつきりと明示した問題解決型の授業を今後も継続していくことで、さらなる思考力の高まりを目指す。 		
指導の方向	<p>1 組織的な授業改善の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間完結型の授業「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を明確にした(学ぶ手ごたえのあるシンプルな授業)実践を行う。 ・対話活動の活性化による伝え合う力・表現力の育成 ・算数科における指導法工夫改善担当による少人数指導や習熟度別指導の導入 ・学習規律の確立（話の聞き方・話し方・授業中のきまり・学習用具の準備等を大東中学校区で統一） <p>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 読書活動の推進（保護者による読み聞かせ活動・年間の読書目標の設定・要点や内容を意識した読書の習慣づけ） 言語環境の充実（人的・物的言語環境の整備、「教師は最大の言語環境である」ことを意識した実践、国語科での読書時間の確保）</p>			



学力に関する達成指標
自分の考えをもち、主体的に授業に参加することで「わかる。できる。」と感じる子どもの割合を85%以上にする。

